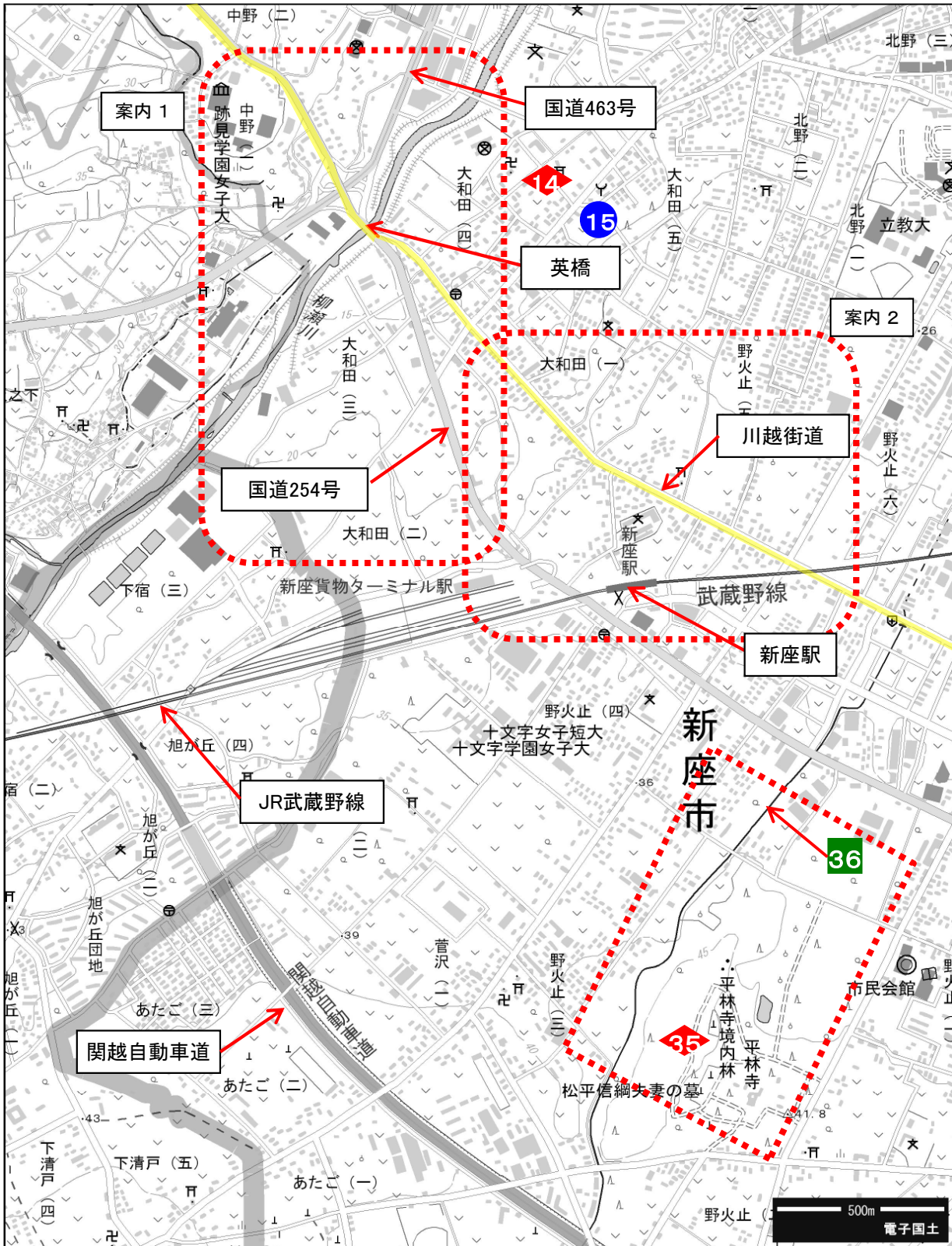


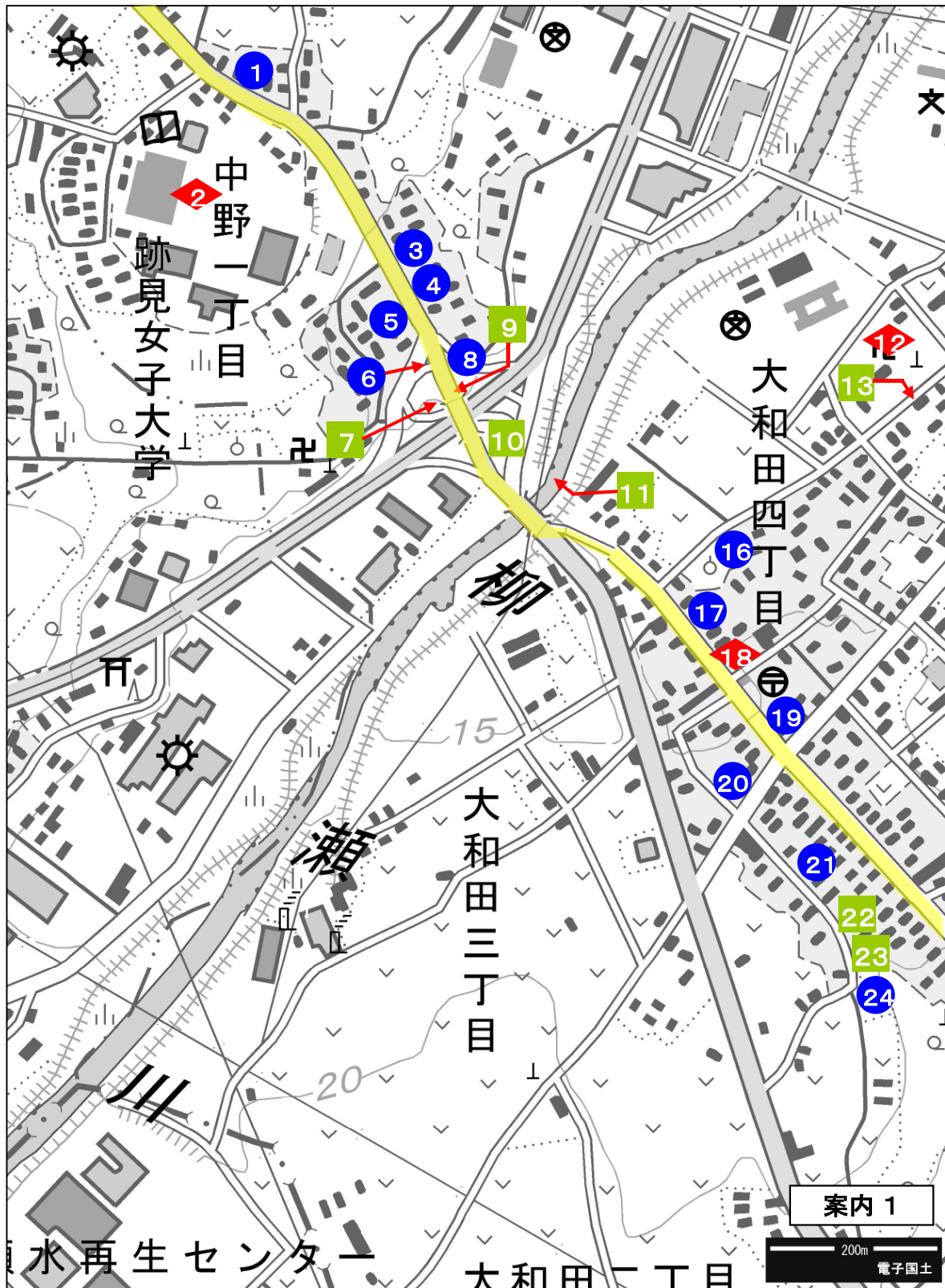
大和田



案内図

調査範囲

大和田



配置図

凡例



史跡・寺社等

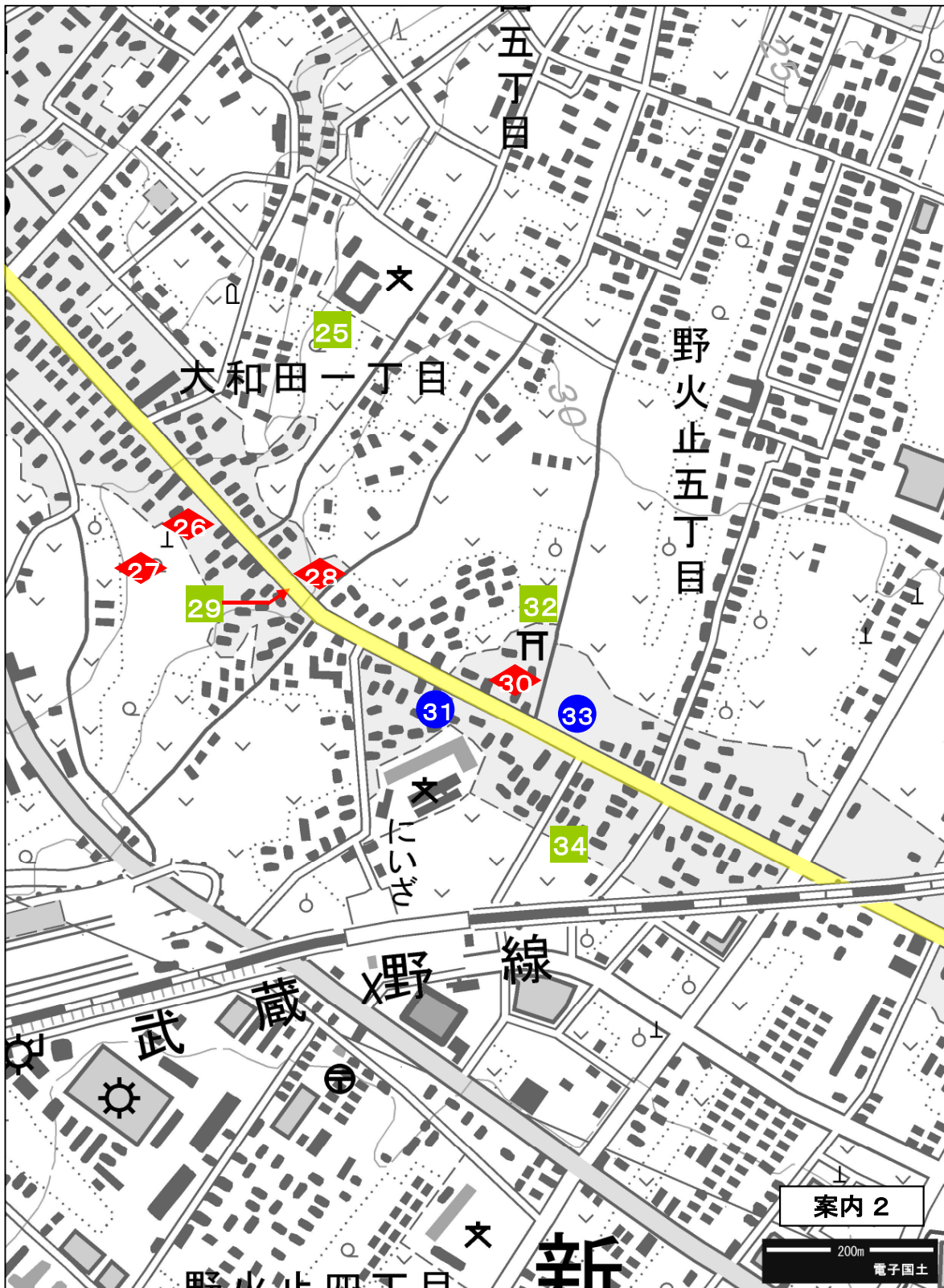


その他の建造物



通り・広場・樹木他

大和田



配置図

凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

大和田



川越街道は、中山道の脇往還とも言われるが、川越藩主には幕府の老中格が配されることもあり重要な街道であった。

大和田宿は、大井宿、膝折宿のように本陣が置かれることはなかった。現在の街道沿いには短冊型の奥行き深い敷地があり、長屋門や蔵を持つ農家住宅が散見できる。(写真は新座市大和田1丁目付近の街道)

1

-1

蔵



平屋の大きな母屋につながって建っている、白壁と観音開きの窓、1階の格子が印象的である。敷地内にあるもう1棟の小振りな蔵にも目が引かれる。

1

-2

蔵



川越街道から敷地が高くなっており、アプローチでは白い蔵が迎えてくれる。植栽と石積みもきれいに手入れされ農家住宅の景観を醸し出している。

2

尔比久良(やひくら)遺跡



跡見学園女子大学内にあり、遺跡はビニール被覆のうえ盛土し、保存されており地表には見えない。説明プレートによりその存在がわかる。

3

蔵



改造されているが白い壁と小窓、入口の戸が目を引く。

4

長屋門



街道から古風で大きな長屋門が見え、これをくぐり抜けるとその奥には伝統的な造りの農家住宅の母屋がある。

5

住宅



往時の繁栄振りがうかがえる農家住宅である。

<p>6 住宅</p>	<p>7 川越街道</p>	<p>8 蔵</p>
		
<p>大きな三層の瓦屋根と木製雨戸、屋根の頂上に付いた煙抜きが印象的で、庭の白壁の蔵にも目が引かれる。</p>	<p>現在の川越街道で英インターの近くであるため、大型車両の通行量が目立つ幹線道路となっている。</p>	<p>庭先にポツンと残されたような白い壁と黒い小窓が目を引く蔵である。</p>
<p>9 屋敷林</p>	<p>10 国道463号</p>	<p>11 柳瀬川</p>
		
<p>英インター近くにあり、常緑樹や竹林に囲まれ、通りからは母屋も確認しにくいほどの屋敷林である。</p>	<p>交通量の多い幹線道路が交差する現代の街道の一風景が見られる。</p>	<p>中野宿と大和田宿を分かつ川、少し蛇行しながらの流れは速くきれいだ。両護岸の緑と相まって気持ちの良い都市河川の景観を造っている。</p>
<p>12 普光明寺</p>	<p>13 鎌倉街道</p>	<p>14 氷川神社</p>
		
<p>三層の瓦屋根の威厳のある山門の先にある朱塗りがはがれたお堂である。</p>	<p>普光明寺脇を通る細い静かな道は、かつての鎌倉街道である。現在は落ちついた雰囲気のある道路となっている。</p>	<p>石畳の参道から鳥居をくぐると、大きな木立の中に緑青屋根の本殿があり、境内には熊野神社も祀られている。</p>

	16 蔵	17 蔵
		
	<p>漆喰が塗られていない土壁の状態の蔵は珍しい。土壁のシンプルさがある。</p>	<p>少し茶色にくすんだ白壁が印象的な蔵である。</p>
18 観音堂	19 蔵	20 店舗
		
<p>大和田郵便局の隣の街道沿いに立つ観音様。お堂は古びており寂しさを感じる。</p>	<p>腰高さまでの黒い壁とその上の白壁とのコントラストが目を引く。敷地の奥には長屋門形式の住居が建っている。</p>	<p>円弧上の屋根、四角い小さな窓、メタリックな外壁で2棟がペアとなっている建築である。エントランスもモダンさを感じさせる。</p>
21 蔵	22 短冊形の敷地	23 路地
		
<p>黒い瓦屋根と白壁についた金具周りのひし形の飾りが目を引く。</p>	<p>街道筋には、細長い敷地に街道側から住居、蔵、納屋、そして母屋が並ぶ景観が散見できる。</p>	<p>民家の木立の緑に挟まれた街道裏の狭い道だが植栽があることで歩きやすさを感じる。</p>

<p>24 蔵</p>	<p>25 住宅地内に残された森</p>	<p>26 地蔵</p>
		
<p>大きな白壁で妻側には家紋を付け、入口の戸が印象的な蔵である。</p>	<p>住宅地に囲まれた小高い丘陵の斜面地にケヤキや松の雑木林が残されている。</p>	<p>街道傍の少し高くなったところにポツンと立つお地蔵さん。</p>
<p>27 地蔵</p>	<p>28 馬頭観音</p>	<p>29 川越街道</p>
		
<p>古い墓地の脇に立つ六体の小さなお地蔵さんである。</p>	<p>街道傍の少し高くなったところに大木に挟まれ祠の中に観音様が祀られている。街道を見守っているようである。</p>	<p>大和田宿の南端近くで、長い北下がりの頂上からの街道と街並み景観。街道の両側には、蔵を持つ農家等を見ることができる。</p>
<p>30 神明神社</p>	<p>31 蔵</p>	<p>32 ケヤキの木</p>
		
<p>大和田宿は、この辺りから始まったようだ。石の鳥居、石畳の参道の先に本殿がある。本殿はシンプルで小窓と彫刻が目を引く。</p>	<p>敷地内に3棟の蔵を有する大きな民家。蔵の白壁が街道からでも目を引く。</p>	<p>道路中央にケヤキの大木が残されており、道路が二分されている景観が面白い。</p>

33 住宅	34 ケヤキの大木	35 -1 平林寺山門
		
<p>深い敷地の中程に長屋門風の住居が建っている。</p>	<p>広い民家の敷地に立つ大ケヤキ、幹の直径が1.5m以上、高さが30m程もありそうな大木で堂々としたランドマークである。同敷地内には蔵も見られる。</p>	<p>平林寺は寛文3(1663)年に松平信綱の命により岩槻より移築された。総門、山門、仏殿、中門が県指定有形文化財、境内は国指定天然記念物である。雑木林は約56haの広さ。</p>
35 -2 松平信綱夫婦の墓	36 野火止用水	
		
<p>川越藩主であり武蔵野の開発に尽力した松平信綱夫婦の墓。</p>	<p>松平信綱は、羽村から玉川上水を開削しその後、領内への分水が許され家臣の安松金右衛門らに命じ開削した延長約25kmの用水である。</p>	